



クロージングセッション

「豊田宣言」のための、各テーマ別セッション における提言に関するモデレーター報告

2016年1月16日 15:20～17:00

共同議長

ニキル・セス 太田 稔彦



クロージングセッションにおいて、まず、「豊田宣言」のためのテーマ別セッションにおける6人のモデレーターによる報告が行われた。

I) 国連地域開発センター (UNCRD) 所長 高瀬千賀子氏 「ポスト 2015 国際開発を背景とした持続可能な都市 について」

今年開催される重要な会議を経て2016年のハビタット III へつながれるプロセスについて、また、そのために都市が果たす役割や、どのように持続可能な社会を作るかの議論を通して6つのポイントが挙げられた。

- 1) このセッションでは都市の役割についてのグローバルな概況報告がなされた。SDGで都市に関する単独の目標がある重要性が認識されたが、同時にどの目標も都市に関連していることも認識された。都市と人間居住については、包括的、生産的、レジリエンスで持続可能、安全な都市を作ることが究極の目的であることが述べられた。
- 2) 課題は、同時にチャンスでもあることから、ポスト2015開発アジェンダのプロセスの中で、それぞれの会議を通して、災害への対応力や持続可能な発展のための財政、持続可能な開発目標、気候変動COP21などをつなぎ、HABITAT IIIで「新しい都市の課題」に合意することが重要である。
- 3) グローバルな抱負も大事だが、そのビジョンを国やローカルの状況に適応させなければならない。
- 4) 住民が参加する人間中心の政策により、柔軟で強靱な、また健康で幸福なコミュニティが可能になる。
- 5) 適応可能な都市の重要性も指摘された。他の都市の良い例や経験を地元の状況に適応させることや、また予期していなかった事態への適応も重要となる。
- 6) 持続可能な都市への変換には、分野を超えた包括的な協力や支援体制が、地球規模、国家レベル、地域レベル、そして地元レベルで必要となる。これらの協調性により持続可能な4つの柱（経済、社会、環境、

制度）を強化できる。

II) 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UN ESCAP) 環境開発局 持続可能な都市開発部長ドノヴァン・ストーリー氏 「人間を中心に据えた都市開発計画： 適応力のある都市」について

持続可能な都市、適応力のある都市というテーマの下で、行政や出資者がこの機会を捉えて成功に導くことが重要。例に挙げた都市には開発のレベルにより直面する課題は違うものの、移動利便性の政策、貧困の削減、適応力のある都市の制度、都市計画やその構造、コミュニティのニーズや期待にどのように応えるべきかなど、共通の課題がある。エコ政策、汚染対策、リハビリテーション、将来に向けた考え方や政策の立案の重要性、また市民の参加が適応力のある都市の実現には必要であることも指摘された。人間中心のインフラ、建築、コミュニケーションの重要性、出資者との持続的な関わりと協力も鍵になる。今日的課題であるレジリエンス、グリーン、包括性、スマートといった付加価値を上げる重要性も挙げられた。

III) 成蹊大学名誉教授 廣野良吉氏

「自然環境保全と持続可能な都市」について

自然環境保全と持続可能な都市についての議論において、3つの点が挙げられた。

- ① 自然環境と持続可能な都市の関係性について。都市と農村を分ける是非の議論よりも、都市と農村を1つのユニットとして考える。都市の中に農村、農地があることで相互にメリットが生まれる。
- ② 多くの途上国に適応される法的権限を授権するための環境について。法律や政策、ガバナンスの問題があるが、ある基準を持つことで政策を維持する。民間は継続性のある政策に関心があるので変更しすぎ



ないこと。

- ③ 出資者をどう巻き込み、持続可能な都市をつくるのかについて。どの国でも出資者と緊密な関係を持つことが持続可能な都市を持つことにおいて重要。

IV) 建築環境・省エネルギー機構理事長 村上周三氏

「スマートシティへの取組」について

日本では、大規模なスマートシティのモデル需要が推進されており、現在4都市でその可能性が探られている。豊田市では、ICT（情報通信技術）を利用したスマート技術によって「デマンドレスポンス」が実用化されつつある。インドネシアのバンドン市では、ICTを活用したスマート化による行政サービスがすでに実施されており、今後も地域や国家間の協力で、さらにスマート化は推進されるべき。また出資者と、エネルギー、水、交通などのソフトとハードの要素をICTで連携させることで、新たなサービスも提供される。これにより新しいスマートライフ、新しいスマートコミュニティが誕生する。しかし、ICT弱者へのケアが行われないと混乱を招くことについて配慮が必要である。

V) 国連ハビタット（アジア太平洋担当）

福岡本部長 深澤良信氏

「レジリエントシティ：優れた実例と得られた教訓」について

レジリエンスをどう分析し特定するのか、また、この問題を社会、制度、環境、科学の要素から論じた。分野横断的な都市問題の解決については、自治体のトップによるリーダーシップをとる必要性を指摘した。地域の問題については、開発をする上で、統合的な手法が地域レベルでのレジリエンスを達成できること。また、持続可能な消費、生産のパターンについては、環境に対する影響、生活の質、経済活動を3つの軸として、生産と消費を持続可能なものにしていくことで理解を深めた。無断居住者についての議論は、レジリエンスの観点からではなく、包括的に考えられるべきある。参加型アプローチ

などで、人々の声に耳を傾ける必要があり、これらをスマートシティの枠組みに落としこんでゆく。安全に人が住める場所についての指針も出された。

VI) 国連環境計画（UNEP）アジア太平洋地域事務所

上席地域コーディネーター ステファノス・フォティウ氏

「持続可能な都市への投資」について

今、持続可能な開発への投資は、黄金の機会を迎えている。インフラは、国の開発計画に盛り込まれるべきであり、投資の機会は、国際的な協調の下で行われる必要がある。政府側も都市、インフラのサポートをすること。持続可能な都市に対する投資は、経済においても理に適うので、政策面からも、持続可能な都市についてサポートしてゆく。そのためには、省庁間でのコーディネーションや民間の参加も不可欠。革新的な手段、TPP、税や補助金に対する介入も必要であり、経済レベルでどれくらいの投資が必要かを決定する。また、交通、廃棄物の処理と食料の安全保障も重要であり、グリーンシティの意味を見極めながら、技術面だけではなく社会的なインフラへの投資を行う。投資については、まだ曖昧性があるので、グリーンな都市は何かについての定義や基準の設定が今後も必要となる。

続いて、共同議長である国連経済社会局持続可能な開発部長であるニキル・セス氏より、政策決定と持続可能な社会の実現は相互に深く関わっており、統合的な形で成功を目指すべきであると語られた。持続可能な都市の問題は、ポスト2015開発アジェンダの中でも優先順位が高い項目であり、資金面の問題や資源効率、雇用の創造、経済成長などすべてが達成されて、初めて持続可能な開発が実現されたといえる。また、今回の議論は「豊田宣言」として、ハビタットIIIのプロセスを経て、NYの会議につなげたいという考えに続き、今後はすべてのレベルの政府、都市計画者、出資者、若い人々の間で協力関係を期待するというコメントの後、最後に太田市長あいさつによりシンポジウムは幕を閉じた。





閉会の辞

豊田市長

太田 稔彦



それでは私からは、皆さんにお礼を申し上げます。まずは、今回の会議の共同議長を務めていただいたニキル・セス部長に心からお礼を申しあげます。ありがとうございます。

共同議長という肩書を私もいただきましたが、実際はニキル・セス部長がお1人でこの2日間進行されました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

そして国連の皆様もありがとうございました。長期間にわたって豊田市職員のサポートをしていただいたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

またモデレーターの先生方、非常にタイトな時間の中で、しっかりと要領よく、まとめ方をしていただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

そして誰よりも、この会議に参加していただいた皆様、本当にありがとうございます。この2日間、皆様方にとっても非常に有用な会議であったと思います。実に幅の広い、充実した様々な意見交換がされたと思います。

この2日間を通して、私が改めて感じたのは、国により、地域により、本当に背景、事情が違うということです。当然政策の優先順位も、それぞれの地域によってずいぶん違うということを改めて感じました。

豊田市政の限られたエリアの中の経営ですが、そうしたグローバルな視点を持ちながら地域経営をするということの大切さを感じました。

今回この会場には、2日間で国内外から二百数十名という本当に多くの皆様にお集まりいただきました。

しかし、この地球上に73億人もの人々が暮らしていることを考えれば、ここに集まった人数は本当にわずかな人数だと思います。その意味では、今回この2日間の私たちの出会いは奇跡に近い出会いであろうと思います。

ぜひとも、この奇跡に近い今回2日間にわたる出会いを、今後とも引き続き大切にさせていただきたいと思えます。

最後に、改めて申し上げます。ようこそ豊田市へお越しいただきました。お会いできたことを心から感謝申し上げます。今後とも良き仲間であり続けることを心から願っています。ありがとうございました。



集合写真

日 時：2015年1月15日(木) 10時15分
 会 場：名鉄トヨタホテル7階「金扇の間」



記者会見

日 時：2015年1月16日(金) 17時30分～18時00分
 会 場：名鉄トヨタホテル7階「伏見の間」
 出席者：国際連合経済社会局持続可能な開発部 部長 ニキル・セス 氏
 豊田市 市長 太田稔彦

